

集合住宅に

「業務用生ごみ処理機」



昨年7月発行
ごみっと73号掲載の
東京都・府中市
多田さんの投稿の
続報です

「業務用生ごみ処理機」がやってきた！ その1

府中市住宅自治会「一栄会」 多田 眞

私の住む府中市は、この2月2日から長年使用していたダストボックスが廃止になり、有料ごみ袋を使用しての戸別収集が始まります。そんなごみ収集の大きな転換を目前にした昨年の暮れ、我が集合住宅(60戸)には、1日に30kgの生ごみを分解できる業務用生ごみ処理機のデモ機がやってきました。

業務用では投入される生ごみの質がほぼ限定されますが、家庭の生ごみには何が入ってくるかわかりません。実機テストは貴重な実績作りなるとのことで、長期にわたる無償貸与となったのです。

自区内処理を目指す



家庭ごみ有料化を前に、どうしたらごみを減らせるかを考えました。生ごみを分別すると可燃ごみが激減することは実践してわかっていました。

ならば「副生成物のほとんど発生しない分解力の高い生ごみ処理機を」ということで決まったこの処理機は、微生物による消滅型で、ひとくちに言うと「くたくん」の一括処理版です。

6ヵ月毎にメーカーが菌床の入れ替え作業を行うので、その時に異物も取り除け、投入するものの制限にあまり神経を使わなくて済みます。古い菌床は無償で引取ってくれますが、堆肥として使いたければただでもらう事もできます。住民がルールを守れば、交換作業を1年以上延ばすことも可能で、交換を手伝えればコストも下がります。

これで、可燃ごみの排出量は従来の1/10にできる目処が立ちました。費用も生ごみを有料で出すより低く抑えられそうです。残るわずかな可燃ごみをどうやってゼロにするか…早くも議論はそちらに向かってきました。

持続可能なごみ処理



このシステムを継続して定着したものにするためには、生ごみ処理に携わることで住民の環境に対する意識が成長し、ごみ処理をしているのではなく、資源を生み出す作業をしているのだ…との

思いを強く持ってもらうことが前提になります。

その点、集合住宅は自治会などで組織的な合議システムをとることに慣れているため、比較的実現しやすい環境にあります。

また、選択した手段が正しいものであることが必要です。装置そのものも利益追求型でなく人・環境に優しくなければなりません。

導入の動機



もちろん、ごみゼロの目的達成のツールを望む住民多数の意欲が原動力です。

生ごみを焼却すると、府中市では、月1,500円/戸のコストがかかり、CO₂も約1kg/月・戸排出することになります。

この装置ではコストは月320円/戸(本体5年償却コストを考慮すると900円/戸*生ごみ110番東京ネットワーク資料より)、CO₂排出量は0.06kg/月・戸で済みます。

次ページの表は、我われが選択した生ごみ処理機の詳細です。

運転開始!



生ごみ処理機は団地の会館前に設置されました。稼動時の音は1m離れて、52デシベルとのことであまり音はしないものの、対向する棟の2

装置詳細

項目	内容
処理量 kg/日	30
外形寸法 W × D × H	1850 × 1285 × 1775
重量 kg	750
定格消費電力 KW	3.1
電源	三相 AC200V 50/60HZ
脱臭装置	多層脱臭方式

- メーカー：M・I 技研株式会社
tel 03-3496-3213 価格 = 300 万円
- 平成 12 年ごろから食堂、青果市場などで実績を重ね、3 年前に今の菌床に改良され臭わなくなり、分解率 99.8% を実現している。
- 引取った菌床は分析後調整され、堆肥（土壌改良材）として再利用される。



階以上の室内で音が聞こえたので、気になるようなら防音用の囲いが必要になります。夜間は攪拌機を停止するのでさらに静かです。

菌床を安定させるために最初は毎日定時に投入することにしました。そのため実行委員を決めて、3 人 1 チームを 4 つ作り、1 週間ごとに交代します。1 日の排出量は 20 kg 前後です。

運転管理表を作成し、日時・天気・生ごみ投入量・菌床温度・外気温度・電気メーターの積算電力量・

10 ㎤のポリバケツを 3 個、予備用に 15 ㎤ 1 個を用意した。奥に処理機が見える。



観察状態を記録します。このデータを元に運転時間の短縮、誰でも好きな時に投入できるような体制を作り上げる予定です。

今、住民はいつでも好きな時に生ごみをポリバケツに捨てられます。投入係は定時に機械に投入し、空になったポリバケツは毎回洗浄して所定場所へ。床や機械の汚れは常に清掃し、清潔を心がけます。

左の写真は投入直後と 2 時間後の菌床の状態。最初なので分解は遅いのですが、内部は水蒸気がモヤモヤと立ち込めています。

分解の状態を観察すると“くうたくん”と全く同じです。白菜を丸ごと捨てた人がいましたが攪拌の羽根で瞬く間に粉碎されました。しかし、やはり野菜などは細かくしてから投入した方が、分解は早いです。

効果（生ごみを投入し続けても菌床は増えてこないのか、臭気はしないのか）・使い勝手（誰でも利用しやすいか、周りを汚さないか、故障しないか）・実効性（使用する住民に継続性を期待できるか）・ランニングコスト（電気代ほか）などについては、次号でご紹介します。



投入直後



2 時間後

表紙イラスト担当 **猫野ぺすか** さんの **絵本**

福音館の「こどものとも」(5-6才向き) 3月号

「こひつじとことこ」 定価 410 円

文・松野正子 絵・猫野ぺすか

ぺすかさんの版画はほんとにステキ。この絵本は木版、孔版、消しゴムはんこを駆使して作られているそうです。ごみっとの表紙では見ていただけない色の美しさも十分に楽しんでください。

絵本は「こどものとも」で、ぺすかさんの公式サイトは「猫野ぺすか」で検索してください。

2月発売!

毛を刈られるのがいやで、牧場から逃げ出した子羊。嵐の中けがをしたところを助けてくれた少年に、暖かい毛をプレゼントします。

